

久保栄『林檎園日記』を読む!



久保栄 Sakae Kubo (1900~1958)

劇作家、小説家。札幌に生まれる。3歳の時に祖父熊蔵の養子となり東京で暮らす。のちに実家へ復籍する。東京大学独文科選科在学中に「ホオゼ」を訳し、1926年に築地小劇場文芸部に入り小山内薫に師事。ドイツ表現主義の戯曲の紹介・翻訳に従事する。大学卒業後は新築地劇団への参加、「劇場街」「劇場文化」の創刊、日本プロレタリア演劇同盟への加盟などをする。1930年に戯曲『新説国姓爺合戦』を発表。プロット加盟。そして社会主義リアリズムの極致ともいえる『火山灰地』を1937-38年に発表、自身の演出で上演。昭和15年新劇事件で1年半ほど投獄され、その後は終戦まで表舞台から退いていた。戦後は東京芸術劇場を結成、『林檎園日記』を上演する。小説『のぼり窯』では生家に取材した煉瓦工場を舞台に近代の北海道開発史を描く。1958年に縊死。代表作に『のぼり窯』『火山灰地』『五稜郭血書』など。



【講師】神谷忠孝 (かみや・ただたか)

1937年帯広市生まれ。北海道大学文学部大学院博士課程。帯広大谷短大、中央大学に勤務し1976年から北海道大学文学部に勤務。名誉教授。2001年から北海道文教大学外国語学部、今日に至る。2002年から12年間、北海道文学館理事長。著書：「横光利一」「保田與重郎」「坂口安吾」「日本のダダ」久保栄関係：「久保栄『火山灰地』の今日的意義」(音更町「火山灰地」シンポジウム、2000・11)



【会場】シアターZOO

札幌市中央区南11条西1丁目3-17
ファミリー中島公園 B1F

【参加費】

研修参加費(全5日間): 1000円(協会員は無料)
10月1日のリーディング公演
入場料: 500円(協会員は無料)

【お問合せ・お申込】

Hokkaido.jda@gmail.com
(「日本の近代戯曲研修セミナー in 札幌2017」実行委員)

研修申込〆切 9月20日(水)